

京都コースからの7がみ



2023年12月発行
第85号

〒607-8218 京都市山科区勤修寺御所内町64-3
深草こどもの家 勤修寺園舎
TEL:075-641-8280 FAX:075-642-8588
メールアドレス: mc.kyoto@theia.ocn.ne.jp

京都モンテッソーリ教師養成コース創立五十周年 記念講習会

基調講演

自由学園学園長 高橋和也先生

皆さんこんにちは。自由学園学園長高橋和也と申します。

京都モンテッソーリ教師養成コース、設立五十周年おめでとうございます。今日はこのような非常に大切な機会にお声掛けをいただき、本当にありがとうございます。

この五十年間、この教育の理想に共感し、その意義と方法、その価値を深く学び、バトンを渡し、続けてこられた方々がいらして、今そのバトンを受けて、これを進らせている教師養成コースに関わる皆様がいらっしゃることに、心からの敬意をお伝えいたします。

昨年十月、岡山真理子先生より、本日の会への参加依頼の大変丁寧なお手紙をいただきました。お手紙を通じ、深草こどもの家と自由学園との繋がりについて、こどもの家で学んだ卒園生が、その後、自由学園で学び卒業しているということや、自由学園の卒業生の二人が深草こどもの家で教師をしておられたこと、また

第一回卒園生のお母様の多くが「友の会」の方々だったということなどを教えていただきました。

この深草こどもの家で学んだ自由学園卒業生として明石雄介さんのお名前がありました。明石さんはカメラマンさんで、自由学園の入学式や卒業式、学校行事、又卒業生へのインタビューなどでも毎年写真撮影でお力をお借りしています。

今回お話しするにあたって私は明石さんに、深草こどもの家のことを覚えていますかと伺いました。突然お電話し、しかも四十年以上も前のことですので、正直なところ覚えていないという答えが戻ってくるのではないかと思いましたが、驚いたことに返ってきたお返事は「よく覚えてますよ」というものでした。

明石さんは、遊具がいろいろあったこと、中には「においを当てる教具」があり、印象に残っていること、セルロイドのレコードを自分でかけることができ、よく

聞いていたこと、こどもの家の横の竹林では野遊びし放題だったことなど話してくれました。そして「先生からは今日はこれをするようにとは言われませんでしたね。子どもは自分で遊びたいことをして遊び、自分で学ぶものという考えでした。毎日楽しかった思い出しかないですね」とのことでした。

私自身は幼稚園の思い出はほとんどありませんが、明石さんにとってはこのように覚えているほど、当時の経験が大切なものとして心の中に刻まれていることが分かりました。またこれに続くお話も印象的でした。それは小学校に上がって感じたギャップについてでした。

「はじめて家の近くの小学校に上がった時のギャップには苦しみました。これがその頃の自分の一番の思い出になっていくかもしれません。小学校では、何でも決められていることをしなければならず、何をしても決まったことをさせられることに非常に違和感がありました。美術の時間にでも「今日はこれを描きましょう」と言われて、「一体これは何なんだ」と思いました。今思うと、良くも悪くも、自分で考えて自分で決めることをこの時にもう学んでいたんですね。」

このような言葉です。

遊びも学びも自発的にするのが当たり前だった明石さんが、小学校でのギャップに苦しんだというこの言葉は、学校という場所が子どもが主体性を発揮する場所になっておらず、同時にモンテッソーリ教育がそのような力を育んでいたことをよく伝えるエピソードであると思います。

精神科医の佐々木正美先生は、幼児期の教育は大学教育などと違って成長した後にはほとんど忘れられてしまう。しかしこの時期の教育こそ建物でいえば基礎工事にあたる大切なものであり、これに比べれば大学教育は、最後に家の中に入れる家具のようなものだ。家具は何度でも取り換えることができるように、大学は何度でも学び直すことができる。しかし人生の土台作りとなる幼児期の教育は学び直すことができない。忘れられてしまうこの時期の教育であるけれど、その影響力は大きく、そこにこの時期の成長に関わる仕事の尊さがある・・・とお書きになっています。

幼児期の教育について考えるときにいつも思い出す言葉ですが、明石さんは忘れるどころかこの幼児期の教育をはっきりと覚えていたのです。私はモンテッソーリ教育の影響力の大きさに驚きました。また明石さんに自由学園を振り返っての感想を伺うと、「共同生活の中でいろいろな役割を任されて、それを自分のやり方でそれぞれ自由にやっていくのがためになりましたね」との言葉が返ってきました。これも自由学園の特徴をよく表す言葉でした。

明治初期、日本の教育体制は整えられました。その目的は富国強兵のモットーのもと、列強諸国に追いつくことを目指し、国家と社会を支えるための人材養成に置かれていました。この考えは、国家や社会の要請にこたえる人材養成、産業界や国際競争に役立つグローバル人材の育成のための教育という形で、現在も変わらず広く受け入れられているように思います。しかし教育は本来、社会に当ってはまる自分を削り出す役割ではなく、自らの中にある願いを育て、自立して生きる力を支えるものであるべきです。明石さんが感じた小学校での違和感は、与えられた枠組みに従って学ぶ姿勢を求め、日本の教育が現在も根本において抱えている本質的な問題につながるものであると思います。

話は戻りますが、本日自由学園の私をお招きいただいたのは、モンテッソーリの教育と自由学園の教育の共通点に注目されていることではないかと思えますので、次に自由学園についてご紹介させていただきます。

自由学園は一九二一年(大正十年)に、共にジャーナリストでありクリスチャンであった羽仁吉一・もと子夫妻により創立されました。二人の共同作業は家庭の友という雑誌の出版から始まっています。この雑誌が現在も婦人之友と名前を変えて続いており、今年創刊百二十周年を迎えました。この雑誌の愛読者組織が「友の会」です。

羽仁もと子とモンテッソーリにはいくつかの共通点があります。二人はともにクリスチャンです。ともに二十世紀初頭における女性の社会進出の先駆けであり、そしてともに教育の分野で活躍しています。

モンテッソーリは一八七〇年に生まれ、一九五二年に八十一歳で亡くなっています。一方、羽仁もと子はモンテッソーリの三年後、一八七三年に生まれ、モンテッソーリの五年後、一九五七年に八十三歳で没しています。二人は同じ世界状況を

背景に、ほとんど同時代を生きています。

モンテッソーリは一九〇七年、ローマで最初の子供の家での活動をはじめ、羽仁もと子は一九二一年に自由学園を設立しました。この背景には、世界で、工業化社会の画一的な教育に代わる新しい教育を求める新教育運動の動きがありました。子どもを信じ、子どもの主体性を尊重すること、協働性を大切にすること、経験を重視することなどに共通点があります。

自由学園は女子のための学校として始まります。そして小学校、男子の中高、幼稚園、大学部と広がり、一昨年、創立百周年を迎えました。

「思想しつつ 生活しつつ 祈りつつ」というモットーのもと、人間の全体である「こころとからだとたましい」を育てる教育に取り組んでいます。

また、主体的に自分の頭で考える力、同時に仲間と協力してよい社会をつくる力を身につけることを目指しています。

このような力を育てるために、創立以来、生徒が自分たちの学校生活そのものを、自分たちの手で自治的に作り上げることを大切にしてきました。これは「生活即教育」「自労自治」という言葉で語ら

れています。生活を通じて自ら学ぶ力を育てるところ点は、モンテッソーリ教育に通じるところであると思えます。私自身、中学から大学部まで十年間を自由学園で学びました。(つづく)

この後、「自由学園のエピソード」「モンテッソーリと同時代に生きた羽仁もと子氏」「平和教育」等、お話ししてくださいました。この続きは、来年度発行の「自由をこどもに」に掲載されます。素晴らしいお話しをお聴きし、大変充実した講演会となりました。



京都コース五十年の歩み

二〇二三年夏の講習会より

京都モンテッソーリ
教師養成コース 岡山眞理子

京都コース五十周年の歩みの中で、私は四つの立場を経験させていただきました。一つ目はコース委員長として、二つ目は学生として、三つ目は深草こどもの家で実習を担当させていただいたこと、四つ目は講師として。今日は講師以外の経験をお話しさせていただきます。

一番目、コース委員長の立場から。今年（二〇二三年）三月のコース卒業式でもお話ししましたが、京都コースが一番大切に行っていること即ち、主軸になることは「子どもにとって良い先生を育てる」ことにあります。

① 昨今、モンテッソーリ教育全体の一部（教具、教材）のみを切り取り、お母さん、子どもを集める「お教室」なるも

のが増えております。それを目的として、コースに入学され資格取得を希望される方につきましては、ここ数年入学を遠慮していただいております。

② 入学願書の志望欄に、「コースを卒業された先輩の先生のように、自分も子どもに誘われた時に教具の紹介ができるようになりたいです。」と書かれている方が多数おられます。教具の紹介方法を学ぶことは重要なことです。しかし、紹介方法を学び、更に立派なアルバムを完成させたとしても、卒業後、保育の場にあつて子ども心に寄り添うことも耳を傾けることもなければコースで学んだ意味がありません。「子どもにとって良い先生」とは、子どもの育ち（子どもが自ら育とうとする力）を援助し、子どもが自信を獲得していくことを自分の喜びと感じる先生です。モンテッソーリは、「その喜びが教師にとって最高の報酬です。」と言っています。古いタイプの先生から新しいタイプの先生に変わる、ここに教員養成コースの役割があります。「子どもを自分（大人）

の次元に引きずり降ろすのではなく、子どもの純粹無垢な次元に大人が上がりなさい」（モンテッソーリの言葉より）。良い先生を育てることは教員養成の大切な目的です。良い先生が育ち、良い実践園が増えることを願っております。

③ 実技担当の先生方は、一つの教具を紹介する時に、その教具を通して関った子どもの様子等、沢山の事例をお話しされます。そのことにより学生は教具をより広くより深く理解することが出来ます。実技の紹介のみを伝授するならば保育経験がない人でも可能です。しかし、京都コースは実技を担当する全ての先生が、保育経験が長く豊かな人に限られています。これは京都コースだけの大きな特徴と言えるでしょう。

二番目は、学生であった時のお話を致します。

① 京都コースは開設当初、一年制から始められました。入学と同時に授業を聴き同時にアルバム作成に取り掛からなければなりません。学びに余裕が

なく負担があまりにも大きく数年後二年制に変更されました。

②当時、教具が普及されておらず、コースに来た時以外は、教具に触れる機会がない学生が多く、練習時間は教具を取り囲み、試行錯誤を繰り返し時間が経つのを忘れるくらい練習をしました。

充実した時間でもあり、互いに親交を深める時間でもありました。ある学生は玩具店でもちやのビーズを購入し千の立方体のビーズを作られたことを思い出します。

③生活、感覚、数、言語と四教科全てを赤羽先生から教わったことです。先生はドイツで勉強されたことをそのまま学生に伝えてくださいました。その紹介方法はとてもシンプルだけれども教具がもつ魅力と深みが充分に伝わってきました。今の実技のように教具の並べ方、置く位置等、細かく覚えるのに苦労した記憶がありません。その代わりにモンテッソーリの教具がもつ素晴らしさに感動したことを覚えております。その感動の思いは今も残っております。

紹介方法が緻密になればなるほど教具のもつ魅力が削り取られていくことを私は懸念しております。紹介方法をシンプルにし、モンテッソーリ教具への感動の思いを学生にも味わっていただきたい。これが私の今の思いです。

三番目に深草こどもの家で実習を担当した立場からお話し致します。当時、私は実習生に次のようなことをお願いしておりました。「保育中は私が持てる全ての力を子どもに注いでおります。それ故に実習指導はできません。私が子どもと関わる時に上手くいかなかったことや、失敗したこと等を含め全てを観てください、得ることがあれば得てください。私からは与えてあげることとはできません。多くを吸収してください。どうかはあなた次第です。実習の日数をこなそうと思っている人はそれだけのものです。」と。しかし、保育後の話し合いは十分な時間をとり、実習生からの質問やその日の子どもの関わりにおいて、その時の私の思いや子どもの反応等を詳しくお話ししました。また、逆に私の知ら

ない場面での子どもの姿を覚えていただくこともあり、互いに子どもへの認識を深めていく時間でもありました。当時、深草こどもの家しか知らない「井の中の蛙」であった私は実習生から多くのことを学びながらモンテッソーリ教育の良さを再認識する場でもありました。「子どもにとって良い先生を育てる」とは、いつも子どもの前にあつて謙遜であり、モンテッソーリの原点である「子どもから学ぶ」ことができる先生を育てることにあると思います。



京都モンテッソーリ教師養成コース 創立五十周年 記念講習会 報告

令和五年七月二十九日、三十日
於 KOKOA 京都市国際交流会館

京都コース主任 渡辺 政美

新型コロナウイルス拡大以来、実施が出来ずにおりました京都コースの講習会も四年ぶりです。対面式講習会を開催することが出来ました。また、京都モンテッソーリ教師養成コースの五十周年、そして、一九六三年、当コース並びに付属園深草子どもの家の創設者でいらっしやいます赤羽先生が、日本で初めてモンテッソーリ教師となられてから、ちょうど六十年の記念の年でもあります。この記念すべきこの年に講習会を開催できたこと、心から感謝申し上げます。

さて、令和五年年度の講習会は、モンテッソーリの原点である「平和の願い」のもとモンテッソーリの最終的な目的である

「平和教育」を改めて考え、「平和を築く子どもたちと共に」というテーマを掲げました。五十周年に当たり、高橋先生の基調講演、五十年の歩みや卒業生の方のお話しなど、皆様と共に学ぶ機会となりました。

講習会終了後、参加者の皆様から沢山の感想をいただきましたので、一部ご紹介させていただきます。

【全体会】

- ・ 幼児教育のみならず日本の教育全般に課題を投げかけており、素晴らしい講演でした。その中から、私たちのモンテッソーリ教育の進むべき道が更にかになったと思います。

- ・ モンテッソーリと同じ時代に生きて、同じ思いを持ち、子どものために尽くされた人（羽仁もと子先生）がおられたことに驚きました。

- ・ 子どもに触れることは愛に触れていること、子どもから愛を学ぶことなど、モンテッソーリ教育のお話は、いつも気持ちを穏やかにしてくださいませ。

- ・ モンテッソーリ教育の原点と実践、そして、目の前の今を生きている子どもたちから学ぶ大切さを再確認させていただきました。

- ・ コース五十周年の歩みでは、一貫として「子どものために」の教育を積み重ねてこられた重みを改めて感じました。京都コースで学べたこと、本当に幸せに思っています。

- ・ モンテッソーリ教育を大切に育まれてこられた先生方のお話しを聞かせていただき、とても感動し、今、こうして参加させていただいていることに感謝します。

【卒園生への取り組み】

- ・ 子どもの戸惑いやしんどさの報告を受ける度に、私たちに出来ることは何かと、ずっと思ってきました。子どもにとって良い教育が連続して行われるためのヒントを沢山いただきました。

- ・ 卒園生の心の思い、移ろいなどを共感を持ってうかがうことが出来ました。
- ・ 卒園生への具体的な配慮の必要性を痛

感じ、今後も持続していかねばならぬ
ことを再確認する研修となりました。

【実践報告】

- ・ 日々、子どもたち一人ひとりに丁寧に関わることによって、子どもの心も安定し、自分の身体を動かし体得し、満足していく積み重ねが、一人ひとりが自分自身を創り上げていくことに繋がっていくということを改めて大切なことだと感じました。
- ・ 職員皆で、考えていこうという姿が発表から感じられました。
- ・ 子どもたち一人ひとりを大切に愛を持って関わることの大切さを改めて感じる事ができました。
- ・ 環境、一人ひとりへの関わり、寄り添い方や自由へのラインの見極めなど学びになりました。
- ・ 子どもの出来ることをどんどん試してみることを実践したいと思いました。
- ・ 保育者が手本となることの大切さ、約束事を一つ一つ丁寧に時間をかけて子どもたちに伝えていく大切さに気付きました。

ました。

- ・ 「何か出来るように」とさせようとしていた自分を見直し、まずは、子どもとまっすぐ向き合いたいと思います。
- ・ 「いつか一人で出来るように手伝う」ということで、手を出し過ぎず、見守りながら一人ひとりの成長を手助けしていきたいと思いました。
- ・ 今の子どもたちが、毎日を幸せに生きて、自己を充実でき満足することで、自分も他者も愛することができるよう、そのお手伝いをこれからもさせていただきたいと心より思いました。

【ワークショップ】

- ・ 毎日の生活に密着した事項、一つずつ大事にしたいと思います。小さい子に提供できる日常生活の事項を考えて一緒に楽しみたいと思います。(生活)
- ・ 子どものエピソードを交えての説明で、とても分かりやすかったです。(感覚)
- ・ 「子どもたちにとって分かりやすい方法は何か」というところを意識した提供を見ることができ、とても学びとなりました。

ました。(感覚)

- ・ 0歳からの関りについて、お母様たちにお伝えしていきたいと思いました。また、妊婦の方の精神安定が胎児にとっても五感の発達に向けて大切であることを再確認いたしました。(言語)
- ・ 分かりやすく、とても面白い提供でした。忘れないよう勉強します。(数)



ご寄付のお礼と進捗状況

学校法人化プロジェクトを開始してから4年、園舎を再建しなければならなくなり寄付募集を開始してから2年の月日が経ちました。2023年10月末日までのご寄付総額は51,794,543円になりました。皆様からの力強いご支援に一同心より御礼申し上げます。報告書にてお知らせしました通り、今はすっかり更地となった深草園舎の跡地での建築は大規模な擁壁を必要とするため現段階で実現することは極めて困難であるとの判断に至り、一日も早く学校法人化を実現するためには建築費が少しでも安くできる平らな土地での建設を目指すことが最重要課題ではないかと考えております。現在、その平らな土地につきまして、交渉を続けております。また、京都府、京都市との連絡・報告を続けて行っております。引き続き応援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

<勤修寺園舎での子どもたちの様子と京都モンテッソーリ教師養成コース>

勤修寺園舎の園庭は旧深草園舎に比べると狭いですが、こどもたちの成長にとって必要な環境を十分に考えて整備し、環境をつくり続けております。有難いことに裏山（竹林）の一部を地主さんのご厚意で遊び場としてお借りすることができ、園庭と竹林の間には小さな沢があり、子どもたちが沢に降りられるように階段をつくりました。沢には古くから生息するドジョウ、川エビ、アカハライモリなどが現れ、子どもたちは発見しては大喜びで観察しています。沢や竹林と広がった環境の中でこどもたちは虫探し、ハンモック、竹のぼりなど毎日豊かに変化する自然を楽しみながら、遊びを展開しています。コース学生の方々も深草園舎とはまた違った発見のある実習をされ、学びつづけておられます。京都コースの講義も無事に同会場にて滞りなく開催することができており、思いもよらぬ園舎引っ越しとなりましたが、学校法人化達成までの間、このような自然豊かな環境でこどもたちの良い生活を続けることができることを心から感謝しております。



京都モンテッソーリ教師養成コース／深草こどもの家
学校法人設立準備会代表
根岸美奈子

<京都コース50周年記念オンライン特別講演会を開催しました>

京都コース創立 50 周年記念の年、また日本人初のモンテッソーリ教師となった赤羽恵子がドイツ（ケルン）でモンテッソーリ教師ディプロマを取得してから 60 年という節目の年。（※京都市とケルン市姉妹友好都市 60 周年記念の年でもあります）ドイツ・モンテッソーリ協会のご協力を得て、オンラインにて特別講演を二回開催しました。11 月 5 日は 100 人以上の方々が参加されました！録画視聴申し込みはまだ可能です！

【ドイツのモンテッソーリ小学校 その歴史と実践 11 月 5 日（日）】

講師：ドイツモンテッソーリ協会（DMV）会長ヨアキム・コイパース先生
お申し込みはこちらから（録画視聴申し込み及び視聴は 12 月 5 日まで）

<https://kyoto-deutsche-montessori-1.peatix.com>



【「目で感じ、手でみる～生後最初の数年間におけるマインドフルな導き～

エミー・ピクラーとマリア・モンテッソーリ：子どもを中心に」11 月 23 日（木祝）】

講師：マリア・クライ アウワースバルト先生 ドイツモンテッソーリ協会理事

お申し込みは京都コース事務局までメールでお知らせ下さい。

（録画視聴申し込み及び視聴は 12 月 23 日まで）

京都モンテッソーリ教師養成コース 創立50周年 集合写真 kokoca京都市国際交流会館



*集合写真につきましては、ご希望の方には、データをお送りしますので
京都コースまでお申し込み下さい。

Eメール：mc.kyoto@theia.ocn.ne.jp

日本モンテッソーリ協会(JAM)近畿支部研修会のご案内

久しぶりに対面で開催されます。モンテッソーリ教育実践の情報・意見交換を実際にお会いしてお話いただき、近畿支部のみなさまに同じ志をもつ仲間がたくさんできることを願っています。是非ともご出席くださいますようご案内申し上げます。

日 時：2024年1月8日(月祝) 10時～16時
会 場：奈良カトリック幼稚園 奈良市登大路町36-1(近鉄奈良駅下車徒歩3分)
会 費：無料
持ち物：昼食・上履き

テーマ：「集中する子どもの姿と心の成長」

< プログラム >

午 前：近畿支部総会

実践報告 発表園：深草こどもの家(京都)

昼 食

午 後：実践報告 発表園：モンテッソーリこひつじ保育園(大阪)

実践報告 発表園：葛カトリック幼稚園(奈良)

グループ討議

16:00 研修会終了

申込期限 12月12日(火) 尚、研修当日でも受付いたします。

*近畿支部研修会に関するお問い合わせは、奈良カトリック幼稚園までお願いします。

TEL：0742-22-4089 FAX：0742-26-3261

MAIL：info@naracatholic-youchien.jp



友好学園

「こどもの家」 集団便り

(京都コースで研究開発された教材の販売部)



●出席カード (モンテッソーリカレンダー)



- ・赤羽恵子が考案した「時の概念」「歴史」を伝える出席カードは、ドイツ・モンテッソーリ教育の大家、ハンス・エルスナー先生が絶賛されたカレンダーです。
- ・「きのうの次は今日。今日の次はあした。」一日一枚シールを貼って、次の日、また次の日、と横につながっていて、幼いこどもの心に添って作られているため、2～3歳児にもとてもわかりやすいです。
- ・シールを貼った下の欄に年長児はその月の予定を書き込むことができます。また、育児日記のように保護者の方が書くこともできます。
- ・出席カードを一年間繋げると365日につながり、実際に目で見て一年という時の長さを体感することができます。
- ・他にはない、京都コースオリジナルのモンテッソーリカレンダーです。

Aタイプ：2024年の土日祝日を記載

Bタイプ：通年使用可(土日祝日の記載なし)

*Aタイプは数に限りがありますので、お早目の注文をお願いいたします。



ご注文は FAX：075-645-4181 でお願ひします。

注文先・発送部：〒612-0838 京都市伏見区深草神明講谷町2-4 URL：www.montessorimaterial.jp



今年もあとわずかとなりました。皆様も充実したお忙しい日々をお過ごしのことと存じます。今年は数年ぶりに夏の講習会が行われ、皆様とお会いでき、とても嬉しい夏となりました。皆で学ぶことの大切さを改めて感じると共に、各地でがんばっているこの仲間と、心と力を合わせ、また明日から頑張ろう！と思う瞬間となりました。また、京都コース創立五十周年という、記念すべきこの時を、皆様とお祝い出来ましたことを心より感謝申し上げます。わかば会主催の祝賀会

には八十八名という多くの方々がご参加くださいました。会場では、懐かしい写真を拝見してコースの五十年の歴史に触れることができ、また、コースの先生方にもたくさんの温かいお言葉を頂戴し、楽しく、美味しく、素敵な時間となりました。行き届かない点も多々ございましたが、ご参加くださった皆様のご協力に御礼申し上げます。



さて、総会でもお願いさせて頂きましたが、滋賀カトリック学園としてこのわかば会の会長職をお預かりして二十年程になります。今後は、新しい園や学園、他府県の方々をお願いし、新しいわかば会の運営をお願いできればと思います。お受けくださる園がございましたら、ご連絡頂きたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

わかば会 会長

聖母幼稚園園長 井上美幸

◆会費納入について

◎振込先

02 東京 00150-9-82053

京都モンテッソーリ教師養成コースわかば会

◎年会費：

1,500円

※ 長期滞納の方は再入会金 1,000円と
2023年、2024年の2年分 3,000円
計 4,000円をご送金ください。

◎問い合わせ先

わかば会 井上美幸 (聖母幼稚園)

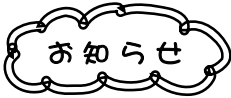
〒520-0802 滋賀県大津市馬場2丁目6-62

TEL 077-523-0480

FAX 077-500-7749

Eメール : seibo-nike@dune.ocn.ne.jp





○編入試験

各地方会場での基礎コースを修了された方を対象に、
 専門コース2年次への編入試験を下記の通り行います。
 日時：2024年2月24日(土) 9:00~16:00
 ※受験者の人数によって、終了時刻は変わります。
 ※切日以降にお問い合わせ下さい。
 場所：京都 深草こどもの家(勸修寺園舎)
 申込締め切り：2024年2月1日(木)まで
 ※申込書は事務局までご請求下さい。

○2020年度募集要項

京都モンテッソーリ教師養成コースの
 2024年度募集要項ができました。
 お知り合いの方々にご紹介ください。
 また、宛先をお知らせいただければ直接
 郵送いたします。ホームページでもお
 知らせしています。願書の用紙もダウン
 ロードしていただけます。



京都モンテッソーリ教師養成コース主催 2024年 モンテッソーリ教育 夏期講習会

日 時：2024年7月27日(土)・28日(日) 場 所：京都ガーデンパレス
 ※来年の夏も一緒に学び合いましょう。皆様のご参加を心よりお待ちしております。
 どなたでも参加できます。

聴講のお誘い

(1) 京都コース卒業生の皆様

基礎コース・専門コースの授業をもう一度受けてみませんか?卒業されてから間もない方、何十年も経った方、どなたでも歓迎します。新たな発見や学びがたくさんあると思います。聴講料は1日3,000円です。JAM及びAMIのディプロマをお持ちの方も、1日3,000円で聴講できます。

(2) はじめての方へ

基礎コースの他、専門コースの授業も聴講することができます。ただし、(生活・感覚・言語・数)教育の授業のうち専門1年目のそれぞれ第1回目の授業に限ります。基礎コースの会場では第I課程のみになります。聴講料は1日10,000円です。

※聴講ご希望の方は事前に京都コース事務局まで。メールまたはFAXでお申し込み下さい。

■2024年度 基礎コース日程表 (在籍者は、下記のどの会場でも何回でも受講できます。)

| 会場 内容 | 福 岡 | 会場 内容 | 東 京 | 会場 内容 | 札 幌 |
|--|-------------|----------|-------------|----------------|-----------|
| 感覚教育 I | 4月 20日・21日 | 生活教育 I | 4月 20日・21日 | 生活教育 I | 8月 3日・4日 |
| 生活教育 I | 5月 18日・19日 | 感覚教育 I | 5月 18日・19日 | 感覚教育 I | 8月 5日・6日 |
| 数 教 育 I | 6月 15日・16日 | 言語教育 I | 6月 15日・16日 | 言語教育 I | 8月 7日・8日 |
| 言語教育 I | 7月 6日・7日 | 数 教 育 I | 7月 6日・7日 | 数 教 育 I | 8月 9日・10日 |
| 感覚教育 II | 9月 7日・8日 | 生活教育 II | 9月 7日・8日 | 感覚教育 II | 8月 3日・4日 |
| 生活教育 II | 10月 19日・20日 | 感覚教育 II | 10月 19日・20日 | 生活教育 II | 8月 5日・6日 |
| 言語教育 II | 11月 16日・17日 | 数 教 育 II | 11月 16日・17日 | 数 教 育 II | 8月 7日・8日 |
| 数 教 育 II | 12月 7日・8日 | 言語教育 II | 12月 7日・8日 | 言語教育 II | 8月 9日・10日 |
| 土曜日 14:00~18:00 日曜日 9:00~16:00 (土・日)を1回として年8回 | | | | 全課程 9:00~16:00 | |

◎第I課程は、幼稚園教諭・保育士資格のある方はどなたでも聴講できます。

※聴講料は、1日10,000円です。(基礎コース修了者及び専門コース卒業生は、1日3,000円です。)

※聴講希望者は、事前に京都コース事務局までメールまたはFAXでお申し込み下さい。